

平成30年度水産研究課試験研究課題一覧

No.	品目	研究課題名	内容	事業名	研究期間	担当
1	ウスバアオノリ	ウスバアオノリ養殖技術の開発	今後、栄養塩が回復し、クロノリ養殖の経営が好転する可能性は低いことから、ウスバアオノリへの転作によって、経営の安定化を図る。本研究ではクロノリ養殖の現状を踏まえ、本県海域に適したウスバアオノリの養殖技術を開発することを目的とする。	市場を広げ新需要を創出する技術開発事業	H28～30	環境増養殖
2	鳴門わかめ、ヒジキ	とくしまの海海藻増産事業	天然わかめ、ひじき等の十分利用の進んでいない天然海藻資源については有効活用を促進することにより、漁業者の新たな収入源を創出する。	とくしま農林水産「元気な産地」育成事業	H25～30	環境増養殖
3	ワカメ	海部郡でのワカメ類養殖の実用化に向けた超高温耐性品種及び養殖技術の開発	鳴門海域で既に開発したワカメの高水温耐性品種の知見を基に、県南海域に適応した新たなワカメ類養殖品種及び養殖技術を開発する。	オープンイノベーション事業	H28～30	環境増養殖
4	ワカメ	気候変動に対応したワカメ種苗生産技術の開発	フリー配偶体種苗生産技術を新たに生産現場の屋内に導入し、気候変動の影響を受けない環境制御型実用規模種苗生産技術を開発する。	市場に広がる「とくしまブランド」を育成する技術開発事業	H30～32	環境増養殖 海洋生産技術
5	ワカメ	フリー配偶体の活用とサポート技術によるワカメ養殖のレジリエンス強化と生産性革命	ワカメ養殖生産の隘路である種苗生産期、育苗期に新たな技術を適用して機構変動への適応性強化し、多収穫・高収益のワカメ養殖の再生を目指す。	イノベーション創出強化研究推進事業	H30～32	環境増養殖 海洋生産技術
6	アワビ	低コストで放流後の生残率が高いアワビ種苗生産技術開発	餌料効果の高い餌の確保、稚貝飼育密度や歩留まりの向上、水槽清掃や選別作業の省力化、高水温期の適切な水槽管理、生産種苗のサイズアップや逃避能力の付与による健苗性の向上等を図る。	オープンイノベーション事業	H28～30	海洋生産技術
7	イセエビ	県栽培漁業センターを活用したイセエビ蓄養試験	県栽培漁業センターの水槽を活用するとともに、イセエビ蓄養のリスクやコストを軽減することで、県産イセエビのブランド化、漁業収入の増加につなげる。	市場を広げ新需要を創出する技術開発事業	H28～30	海洋生産技術

No.	品目	研究課題名	内 容	事業名	研究期間	担 当
8	タコほか	LED水中灯を沿岸漁業に活用する	カゴ漁具を用いて室内外で魚介類のLED水中灯に対する応答の有無を明らかにし、沿岸漁業におけるLED水中灯の利用を促進する。	オープンイノベーション事業	H28～30	環境増養殖
9	鳴門わかめ、スジアオリ、クロノリ、ウスバアオリ	増養殖技術研究	養殖漁業の振興を図るため、海藻類の養殖技術研究及び養殖漁場環境の調査を行う。	水産試験研究費	H12～	環境増養殖
10	未利用資源	6次産業化を推進する水産加工品開発・品質管理の支援	新たな加工法による商品化の支援、活魚、鮮魚、加工品のそれぞれの付加価値の向上で6次産業化を推進する。加工法の開発により、これまでそもそも漁獲対象でなかったり非常に低い価格で取引されていたりした魚の換金価値が向上する。	市場を広げ新需要を創出する技術開発事業	H29～31	海洋生産技術
11		資源管理に必要な情報提供事業	新漁業管理体制下での適切な操業支援、調査体制の整備を図るため、沿岸域における漁海況情報の収集・分析・提供を行うとともに、地域レベルでの情報の提供を行う。	資源管理に必要な情報提供事業	H9～	海洋生産技術
12		病害対策研究	魚介類の感染症等による病害の原因究明、診断及び予防・治療法を確立する。	水産試験研究費	H12～	海洋生産技術
13		漁場環境保全対策調査研究	養殖漁場における水質及び底質の推移を把握し、その結果を基に適正な漁場利用を促進する。	水産試験研究費	S54～	環境増養殖
14		赤潮対策技術開発試験	播磨灘における赤潮被害を防止するため、近隣県と共同で有害プランクトンの出現動向等を調査する。	赤潮・貧酸素水塊対策推進事業	H11～	環境増養殖
15		漁場環境監視等強化対策事業	赤潮、貝毒の被害防止対策を実施する。	漁場環境監視等強化対策事業	S54～	環境増養殖
16		水産基盤整備事業	水産基盤整備事業による藻場、増殖礁の事前・事後調査を実施する。	水産基盤整備事業		海洋生産技術、環境増養殖
17	鳴門わかめ、クロノリ	漁場生産力向上のための漁場改善実証試験	瀬戸内海沿岸域では、冬季の水温上昇と栄養塩減少に伴い、ワカメ、ノリの色落ちの発生頻度が高まっている。瀬戸内海東部海域の関係機関が共同で色落ちの原因解明と実証試験を通じて適正な栄養塩供給手法の開発する。	赤潮・貧酸素水塊対策推進事業	H30～34	環境増養殖

No.	品目	研究課題名	内 容	事業名	研究期間	担 当
18	藻場	ドローン空撮画像解析による藻場等の分布把握技術開発	海用ドローンシステムで空撮したマルチスペクトル画像の解析結果から算出した色調と、藻場実態調査による被度、現存量データを比較することで、ガラモ場、アラメ・カジメ場等の判別、藻場の種別分布把握が低コスト、短時間でできる画像解析処理技術を開発する。	市場に広がる「とくしまブランド」を育成する技術開発事業	H29～31	海洋生産技術
19	藻場	捕食者を利用した藻場回復手法の検討	ウニ類の捕食者であるイセエビの役割に着目し、イセエビの存在が藻場の維持・回復に果たす役割を徳島県海域で検証する。	藻場回復・保全技術の高度化検討調査事業(水産基盤整備調査委託事業)	H30～32	海洋生産技術
20	浮魚、底魚類	漁業資源対策研究	小型底びき網、延縄、パッチ網等の機船漁業で漁獲される浮魚と底魚について、主要漁協の漁獲統計調査や漁獲実態調査により、漁業資源の動態をモニタリングする。	水産試験研究費	H13～	海洋生産技術
21	アユ	河川生産力有効利用調査研究	吉野川におけるアユの資源量調査の実施により、河川資源の有効利用に資する。	水産試験研究費	H2～	環境増養殖
22	いわし類、アジ類、サバ類等、計15種	資源評価等推進委託事業	ABC(生物学的許容漁獲量)の決定と対象魚類の資源状態の把握を目的として、県内主要漁協における漁獲量やそのサイズを調査する。加えて、海洋観測を実施して卵稚仔を採集するとともに水温、塩分等の情報を得る。	資源評価等推進委託事業	H10～	海洋生産技術
23	浮魚、底魚類	「資源回復計画推進事業」主要漁業種に関する調査研究	県内の主要な漁業種類の操業実態と重要魚種の資源動向を把握して自主的な資源管理の取り組みについて効果・影響等を解析する。	資源回復計画推進事業	H17～	海洋生産技術
24		公共用水域水質調査	水質汚濁防止法に基づき、海部沿岸海域の水質を調査し汚濁状況を周年監視する。	公共用水域水質調査	H27～	海洋生産技術
25	カワバタモロコ	カワバタモロコ種苗生産試験	絶滅危惧種であるコイ科の淡水魚・カワバタモロコの保護及び増殖を目的とした種苗生産を実施する。	土地改良費	H19～30	環境増養殖